

第 10 回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

●日 時 平成 31 年 3 月 13 日 (水) 10:30～11:45

●場 所 市民交流プラザふくちやま 3階市民交流スペース

●内 容

1 開会 京都府高齢社会対策監あいさつ

2 報告事項

(1) 平成 31 年度京都府介護・福祉人材確保総合事業（北部地域関連）等について

平成 31 年度京都府介護・福祉人材確保総合事業（予算の説明）

I 京都介護・福祉人材総合支援センター（FUKUJOB きょうと）の運営

II 福祉人材育成認証制度等の活用促進

III 京都府北部人材養成システム推進事業

(1) 北部福祉人材養成システム運営事業

(2) 北部福祉人材カフェ運営事業

IV 介護福祉職場の業務効率化

新たに介護ロボット導入経費助成を実施。

3 情報共有・意見交換

(1) 京都府北部福祉養成システム推進事業について（進捗等）

■平成 30 年度全体実績（2 月末時点）

	新規登録者数	のべ相談数	内定者数		求人開拓数	
			合計	正社員	合計	正社員
目標	420	1,300	360	110	800	300
実績	382	1,706	340	96	935	354
進捗率	91%	131%	94.4%	87%	117%	118%
対前年同期実績	436	1,459	390	102	895	323
対前年同期比	87.2%	116.9%	87.2%	94.1%	104.5%	109.6%

単位 = 名

○主な取組み

1. 北部福祉カフェ

<北部福祉人材カフェ実績>

	新規登録者数	のべ相談数	職場見学者数	内定者数
8～2月実績	420	1,300	360	110

単位 = 名

・新規登録者数は昨年度同期比 107.9%、のべ相談者数が昨年同期比 143.5%

2. ハローワークとの連携（ミニ就職説明会等）業務

8～2月の開催実績

日付	開催内容	会場	参加者	新規登録者
8/24	認知症サポーター養成講座	ハローワーク峰山	14名	4名
9/13	福祉の就職説明会	ハローワーク福知山	4名	
10/9	聞こえのサポーター養成講座	ハローワーク綾部	9名	6名
11/8	認知症サポーター養成講座	市民交流プラザふくちやま	18名	7名
11/27	入門セミナー	ハローワーク綾部	4名	
12/10	聞こえのサポーター養成講座	市民交流プラザふくちやま	8名	2名
3/4	認知症サポーター養成講座	市民交流プラザふくちやま	56名	37名

・今年度から新たな取組みとして「認知症サポーター養成講座」、「聞こえのサポーター養成講座」を開催。

3. 離職者訓練（福祉即戦力人材養成科）

平成 30 年 10 月 25 日～平成 31 年 3 月 22 日で開講。27 名受講（中丹 12 名、丹後 15 名）。

4. 大学実習等誘致事業（北部福祉フィールドワーク）

■北部福祉フィールドワーク ☆目標200名程度 98名

1	◎	佛教大学		継続	5名	社会福祉士 実習	北部各地 実施中 1名31/2/12～21
	◎			継続	7名	フィールドワーク	北部各地 8/20～
2	◎	花園大学		継続	9名	フィールドワーク	舞鶴市 8/28～ 3名終了 11/14～16:5名
3	◎	京都光華女子大学	社会福祉	継続		フィールドワーク	舞鶴市 9/3～9/5 台風 キャンセル12名
	◎		社会福祉	新規	8名	フィールドワーク	宮津市 2/26 バスツアー型
	◎		言語聴覚	継続	9名	フィールドワーク	綾部市・舞鶴市 3/7～8 貸切バス利用
4	×	龍谷大学短期大学部	社会福祉	継続	名	フィールドワーク	
5	◎	京都府立大学		継続	11名	フィールドワーク	舞鶴市(2/25～27) 宮津市(9/19～20)
6	◎	大谷大学		継続	3名	フィールドワーク	宮津市 8/8～10
	◎			継続	9名	フィールドワーク	舞鶴市 8/8～10 綾部市 8/28～30
7	◎	同志社大学		継続	21名	フィールドワーク	舞鶴市 12/17～12/18
8	◎	京都ノートルダム女子大学		継続	4名	フィールドワーク	舞鶴市 9/11～9/13
9	◎	京都文教大学		新規	12名	フィールドワーク	与謝野町 11/16～11/17 2年生

2月末現在で8大学 98名の参加が確定している。

3月に北部の各法人を巡るバスツアーを予定。

5. きょうと介護・福祉ジョブネット取組み

◆2月27日に福知山市民交流プラザで、理解促進事業 進路指導セミナーとして2校（福知山淑徳高校、峰山高校）出席のもと実施。

6. 理解促進事業

■次世代の担い手育成事業 ☆目標 小学校・中学校 新規各1校 小3、中3校

1	△	福知山市立上豊富小学校	済	継続	4年生	14名	～1/18	(福)成光苑 紫豊館
2	◎	綾部市立東綾小学校	済	継続	5年生	12名	6/20～	(福)京都聴覚言語障害者福祉協会 NPOふきのとう
3	◎	綾部市立東綾中学校	済	継続	2年生	20名	9/中～	(福)京都聴覚言語障害者福祉協会 NPOふきのとう 綾部社協
4	◎	舞鶴市立倉梯第二小学校	済	継続	4年生	44名	9/中～	(福)大樹会
5	◎	舞鶴市立和田中学校	済	継続	1年生	37名	9/27・28	(医)正峰会 アザレア舞鶴
6	◎	宮津市立栗田中学校	済	継続	1年生	22名	9/中～	(福)北星会 天橋の郷
7	◎	宮津市立栗田中学校	済	継続	2年生	16名	6/6～7	(福)北星会 天橋の郷

■高校生事業 165名

□出前講座 ☆目標3校 4校/5回

1	◎	府立綾部高校 東分校	済	継続	3年/8名	生活と福祉	6/1	(福)松寿苑・(福)綾部福祉会・(福)綾部社協
2	◎	府立久美浜高校	済	継続	1年/28名	福祉ガイダンス	6/22	(福)太陽福祉会
3	◎	私立福知山成美高校	済	継続	1、2年/46	ベーシック	6/8、6/20	(福)希望の丘福祉会
4	◎	府立宮津高校	済	新規	3年/14名	就職希望者	6/5	五嶋C (福)よつば会
5	◎	府立綾部高校 東分校	済	継続	2年/55名	キャリア教育	12/7	(福)松寿苑 大槻氏

□福祉施設見学会 ☆目標1回 2回

1	◎	府立綾部高校 東分校	済	継続	3年/8名	生活と福祉	6/15	(福)松寿苑
2	◎	私立福知山成美高校	済	継続	1、2年/46	ベーシック	6/20	(福)希望の丘福祉会

□インターンシップ ☆目標5名 31名

1	◎	府立綾部高校 東分校	済	新規	3年/8名	生活と福祉	6/29	サクラティエ・綾部市聴覚言語障害者支援センター
2	◎	府立綾部高校 東分校	済	新規	3年/8名	生活と福祉	31/1/18	サクラティエ・綾部市聴覚言語障害者支援センター
3	◎	私立福知山淑徳高校	済	継続	2年/8名	福祉系列	6/4～6/5	綾部さくら、はなみずき、紫豊館、豊の郷
4	◎	峰山高校	済	新規	3年/2名	進学希望者	6～7月	みなやま福祉会・丹後大宮福祉会(2名キャンセル)
5	◎	府立久美浜高校	済	継続	2、3年/5名	総合学科	11/12	あゆみが丘、丹後福祉会、はしうど、満寿苑

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

□30年度実施状況

- ・資格取得研修（実務者研修修了者 60名等）、各階層職員向け研修、職場変革リーダー養成研修、普通救命講習 防災研修 等
- ・29年度介護福祉士合格者数 34名

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

- ・卒業生は30年度生を加えて50名を越す人材がそれぞれの施設で活躍しているところ。
- ・平成31年度は現時点で22名の入学が決定。

《宮津総合実習センター》

- ・H29.9のオープン以来、大学生、専門学校生、近隣高校生等を受け入れ。
- ・3月には、宮津3法人が連携して施設を見学するツアーを北部福祉フィールドワーク事業と連携して開催。

(2) きょうと介護福祉ジョブネット（北部関連チーム）の取組について

- ・北部福祉フィールドワーク事業をテーマに実施。
- ・11月には、大学・施設等を対象に実践報告会を開催。70名余が参加。
- ・今後、さらに多くの学生を受け入れるため、ゼミ単位での受け入れ体制の確立、ICT利用(LINEWORKSの導入)による効率的な受け入れ体制の拡充、京都府外の大学生の受け入れ、プログラムの充実等に取り組む。

(3) 今後の北部福祉人材確保の取組について

《同志社大学 野村准教授》

2016年から戦略会議に参画しているが、関係者の皆様の話し合いのプラットフォームづくりが進んできたと感じる。同志社大学としても、今年度21名の学生が北部福祉フィールドワークに参加させてもらい、社会福祉士・精神保健福祉士としてはなくてはならない生活者の視点にたった支援のプロセスを学ばせていただいた。社会福祉法改正により、個人だけではなくその世帯をターゲットにしていくことが明確にされた。社会福祉法改正の核にあるのは人々がどんな立場であっても自分の意志を表明できる、専門職の力を借りて意思決定ができる、その権利を多様な支援機関が支援連携を行い擁護することである。意思決定と言う点では、人生の最終段階における医療とケアの決定プロセスをどのように支えていくか、今後専門職の養成の中に盛り込んでいただく重要なポイントになると思う。

これまで、終末期医療の決定プロセスに関するガイドラインを厚生労働省が出していたが、2018年に考え方が大きく変わっている。具体的には、終末期という用語から人生の最終段階という用語に変更し、その最終段階に直面している本人と家族などの意思決定に関わっていくこと、またそのプロセスは、病院完結型から地域完結型の医療提供体制の変更により、医療チームだけでなく、地域の福祉に関わる様々な専門職がその決定に関わっていくこととなった。人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス、それを繰り返し話し合う事をACP（アドバンス・ケア・プランニング）と呼ぶが、昨年11月に「人生会議」と愛称が決められた。意思決定のための話し合いを繰り返すプロセスをととして、地域づくりを行っていくということが政策的にも行われようとしている。行政が地元の関係者と連携ししっかりと関与する北部のプラットフォームの場で、そこに暮らす人の意思決定を中核にすえて、人々の生活の支援をどう行っていくかを、そのための人材養成やキャリアアップの仕組みについて引き続き検討して行ってほしい。

(4) 質疑応答

北部福祉フィールドワークの参加学生で来年度北部へ就職するのは何名か。

→事務局では6名と把握している。

京都府では外国人留学生への就学資金の取扱いについてどのように考えているのか。

→平成31年4月から外国人の留学生に対しても貸与する方向で調整中。

4 閉会あいさつ 京都府介護・地域福祉課長